災害エスノグラフィー演習　体験談（ショート）

Ａさんのケース

【基本情報】

年　　齢：68歳

居住地区：岡山県倉敷市真備地区

家族構成：ご主人と二人暮らし（敷地内の別棟に息子さん夫婦が住んでいた）

当時の立場：民生委員

避難行動：水平避難（真備総合体育館⇒小学校分館）

自宅被害：全壊

住所地のハザードマップ上の危険：洪水による浸水５ｍ程度

避難行動要支援者の該当の有無：なし

7/5 18:30　岡山地方気象台が【大雨警報】を倉敷市に発表

 19:40　岡山地方気象台が【洪水警報】を倉敷市に発表

夕方の６時半頃、一応、避難勧告【※タイミング的には避難準備、高齢者等避難開始情報(土砂災害)と思われる】が出ているのをエリアメールで知っていましたので、避難している人がいるのかな？と、私は地区ですから、小学校の体育館に行ってみました。そうしたら、誰も避難している人がいなくて、市の職員さんが2人受付にいただけでした。それで、誰も避難していないので大丈夫だと安心して家に帰りました。指定避難所となっている小学校は家のすぐ近くですから、開設したと聞いて見に行ってみただけで、まさか、こんな大災害になるとは、雨が降っていても思ってなかったです。

自宅に帰って、その時はまだ道路が冠水しているわけでもなく、ただ、雨はいつもより強いな、すごく降り続くな、とは思いました。ですので、いくらかは、いつもと違うな、と感じていました。普段だったら夜10時頃には寝ていますが、テレビで、雨のことを報道していましたから、やっぱり気になるのでパジャマを着ずに、服を着ていました。

雨はすごく降っていて、防災無線で何か言っているみたいだったので窓を開けたら、雨の音が強くて、防災無線は何も聞こえなかった。それで、近くの川を何度も土手に上がって見に行きました。

22:00 倉敷市が【避難勧告】発令 真備地区全域に発令（洪水警戒）

22:40　岡山地方気象台が【特別警報（大雨）】を倉敷市に発表

23:45　倉敷市が【避難指示（緊急）】発令　川南側の真備地区（洪水

警戒）

私はここで生まれ育っていますから、川の水位というものはいつも気にしているので、雨が降ると必ず、土手に上がって見ていました。今回も一時間ごとぐらい、土手に上がって見ていました。時間ごとに、水位がどんどん上がってくる。こんなに上がってくるのは初めてでした。

7/7 00:00頃　川右岸（西側）決壊

そして、夜12時頃、自分が住んでいる地域の反対側にある西側の堤防が決壊するのを見たんです。決壊したところから流れ出た濁流で、家がダーッと流されていきました。

一緒に見ていた主人は、向こう側が決壊したら、もう、こっちは決壊しないだろうと思っていたようです。だから堤防にいるときに、家の2階にいれば大丈夫だろうということを、この辺にいる人とみんなで話をしていたんです。近所のおじさん連中みんなで、「2階におろうな」ということで。夜中に土手に、人がいっぱいいました。

そのときは、わりと小雨になっていたと思うんです。小雨になったり強く降ったり、断続的に降ったり止んだりしていました。だから、夜12時ぐらいに逃げようと言った時にはそんなに雨は降っていなかったように思います。

夜12時頃に土手に上がった時には、そんなに雨は降っていなくて、逃げようとはそれほど思っていなかったんです。でも、息子のお嫁さんは、ちゃんと毛布も持ってきていて、「やっぱりお母さん逃げようよ」と言って。携帯の充電器も用意していました。私は何も持っていなかったんですよ。逃げようと言われて、何を持って逃げたら良いの？という感じで。でもまあ、明日帰ってくるから別に良いかと。

夜12時頃、既に、小学校はいっぱいだという情報は入っていたので、しょうがないから、クリーンセンターか、総合体育館に行こうかということで、総合体育館に逃げました。

民生委員ですので、避難行動要支援者名簿だけを持って行きました。避難所に行けば私の担当している人が避難していて、安否確認ができると思っていました。次の日は帰れると思っていたから、その他には何も入れていなかったんです。

私と、息子の嫁さんと孫2人で避難する時に、近所にまだ人がいたから、「川の向こうは堤防が切れて危ないよ。家が流されてしまっているよ」と、近くの人だけに声をかけて。まだパジャマを着ている人もいましたよ。「どこに逃げるの？」と言っても「どこかわからん」と言いながら、みんな総合体育館へ逃げたわけです。

私たちが避難するときには、近所の人には声をかけたけど、要支援者名簿に載っている方には声をかけられなかった。私もこんなことになるとは思っていなかったから、連絡をしていないんです。だから、後から考えれば、避難準備が出た時に、避難してくださいと電話をかけなければいけなかったんだなと。私はできなかったんです。それこそ、こんなことになるとは思っていなかったから。今まで大きな災害がなかったから、今までと同じように何もなく済むとしか思っていなかった。

夜の12時頃、真備総合公園の体育館へ避難する時は、お嫁さんの車で行きました。私も自分の車に乗ったんだけど、「お母さん、駐車場がいっぱいになるから、一緒に行きましょう」と言ってくれて。お嫁さんが、ちゃんと息子に連絡もしてくれました。あの時、土手にいた人たちは、あっちが切れたら、もうこっちは切れないと、みんな言っていたんですよね。反対側の堤防が切れて、水位はどっと減りましたから。土手のギリギリまであった水が、どっと減りました。だからそのとき私は、こっちには来ないだろうけど、避難しておこうということで、真備総合公園の体育館へ。お嫁さんが行こうというから。

車で家を出ようとしたら、近所に用水がたくさんあるんですが、その用水がもういっぱいになっていました。道と同じぐらいの高さまで水がいっぱいで。その水で靴が濡れるぐらい。道と用水の境目が見えなくなるぐらいまで増水していました。

自分たちが避難した12時頃は、まだ渋滞してなかったですね。駐車場もまだ空いていました。その後どんどん避難してきて、みんなびしょ濡れになって、次から次にやってきて。

その時はまだ、自宅がある川の東側まで決壊するとは思っていませんでした。

01:30 　倉敷市が【避難指示（緊急）】発令　川北側の真備地区（洪水

警戒）

主人はと言うと、「もう帰って2階に上がって寝ればいいや。テレビで2階に上がっておけばいいって言ってたから」と。「あんたら、一応、避難し。もうええ。2階に居るから」と私らに言って、主人は避難しなかったんです。2階に布団を持って上がって寝る用意をしていました。

それでも、後から息子が電話で説得して、「逃げないといけんよ」と言ってくれて、私たちとは別に、トラックで逃げました。クラウンは水没ですよ。トラックで逃げたから。主人も普段着でスリッパ履き。明日帰れると思って、何も持たずに。それで、今どこにいるの？と連絡があったから、総合体育館へ避難していると言って、だいぶん遅れて来ました。

あとから聞いた話で、ずっと逃げずにいた人たちは、深夜2時ぐらいに警察の人が来て、こっちも切れるから危ないから逃げなさいよと言われたので、岡田小学校に逃げたという話で、だからこっち側（東側）の堤防の人は、亡くなっていないんです。先に決壊した西側では、5人亡くなったんです。

後から聞くと、この亡くなった人達は逃げていたんですよ。でも、一旦、家に帰って貴重品を取りに帰っていたんです。この方はご主人が1ヶ月ほど前に亡くなって、まだ49日もしていないのでお骨とか遺影とかそういう物を取りに帰っていた、その時に決壊したんだということでした。息子さんも一緒に逃げる準備をしていて、息子さんは若いから何かにつかまって助かったけれども、その人は流されて亡くなったそうです。

若い人はやっぱりみんな逃げようとしているんです。同居をしているお母さんに、一緒にお母さん逃げようと言ったけど、私は逃げないと言われたそうです。「私はこの家を守るから、あんたらだけ行き」と。その時は、まさか水没するとは思っていないから。そこの家族はお母さんを置いて娘さん家族は逃げたんです。それでお母さんが亡くなられました。

もう1人も、すぐ隣に息子さんが住んでいて、2階建ての息子さんの家においでと言われても、行かなかったそうです。もし避難していれば。あとから聞いた話ばっかりなんですけど。

07:00頃　川左岸（東側）決壊

3日目ぐらいになってやっと、通れる道からぐるっと回って、自宅に戻ってみると、水でびちゃびちゃです。家に入るまでは大丈夫と思っていたけど、ひどかったです。

自宅を見に行って、おかしいんですけど、水に浸かっているけれども家の中は大丈夫ぐらいに思っていました。今となってみれば、テレビで、冷蔵庫がひっくり返ったり、家の中のものが全部ひっくり返ったりしているのを見ても、「そうそう、そうなるんじゃ」と理解できるけど、その時は理解できなかったんです。

冷蔵庫もタンスもそのままで水に浸かっていると思っていました。水が引けばそのまま生活ができると。でも、3日ぐらい経って水が引いてきたので、自宅を見に行きました。自宅は決壊現場付近だったこともあり、家の中が砂の山だったんです。どの部屋も砂。そこに畳があって、砂の山を歩いたら頭は天井につく。鴨居に頭をがんとぶつけるぐらいです。どこの部屋も。冷蔵庫も何もかも全部。

全壊です。とりあえず家はありました。お隣の家もほとんど傾いています。東側の決壊したところのすぐそばですから、私の前の家はものすごく大きな家だったのに、もう何もなかったです。そこがもう海になっていました。こんなにえぐれて。

以　上